

平成28年度 学校自己評価表（計画段階・**実施段階**）

学校運営計画（4月）				総合評価		
学校運営方針	総合学科創設の原点を見据え、社会に有意な人材を育成する総合学科高等学校として一層の飛躍を目指す。			A		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
昨年度は創立90周年の節目の年であり、創立記念式典及び生徒発表会も成功裏に終わるとともに、東北修学旅行や学習成果発表会等の特色ある取組も成果をあげ、総合学科高校の特色化を図ることができた。また、就職や上級学校への進学においても、素晴らしい結果を挙げた。今年度も生徒の多様な進路希望を実現する指導体制を確立し、本校の特色を一層鮮明にした魅力ある学校づくりを行っていきたい。	希望進路の実現を目指して学力の向上を図る。	アクティブラーニングを取り入れた授業を推進するとともに、わかる授業の工夫や基礎学力を定着させる取組を年次に応じて実施し、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を高めて真の学力の向上を目指す。また、課外授業や進路ガイダンス、進路講演会等を効果的に計画し、生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導を実施する。				
	総合学科高等学校としての取組を一層充実させる。	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の内容の一層の充実を図る取組を行い、社会理解や自己理解を深めながら、生徒の幅広い進路実現を支援する。				
	生徒の人権が保障される学校づくりを行う。	「就学保障・学力保障・進路保障」を中心に生徒の人権が保障される学校づくりを行うとともに、いじめの未然防止や体罰のない学校を目指す。				
	規範意識の向上や道徳的実践力の育成を図る。	挨拶や掃除を率先して行い、場に応じた行動がとれる生徒を育てるとともに、ボランティア活動等の体験学習を積極的に推進し、学校生活全般を通して集団の一員としての役割を自覚させる。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
学習指導	学習意欲と自己学習力の向上により、学力向上を達成する。	教育活動全体を通して、学習が生涯に渡って重要なことであることを認識させ、「わかる授業」の工夫に努める。 「生徒による授業評価」及び「学習時間調査」を実施することにより、授業改善に努めるとともに、生徒の自己学習力の向上を図る。	A B	・生徒の学力向上と総合学科の一層の特色強化に向けて、アクティブラーニングの推進が課題である。全教科においてどのように進めていくか、教科主任や研修・図書主任と連携していきたい。 ・生徒による授業評価については、職員の負担感を減らしながら効果的なものとなるよう、実施方法を計画して実施していきたい。 ・学校設定科目について、その必要性や意義を再検討し、より魅力ある講座となるよう改善に取り組むとともに、今後の在り方についても検討していきたい。 ・出席率については、上半期は98%を上まわっていたが、下半期では下降してしまったため、年次との連携を強化して改善に取り組んでいきたい。		
	授業規律の確立と授業技術の向上に努める。また、生徒一人ひとりの進路希望にあった科目選択に主体的に取り組ませる。	長期休業中における成績不振者指導の充実等きめ細かな学習指導体制を確立する。また、授業技術向上のため、研修課との連携・協力を深め、「規律ある授業」「わかる授業」を展開する。 各生徒に対応した時間割となるよう、各年次や総合学科推進課、研修課との連携を深めて指導体制の充実を行う。	A A			
	生徒指導全般に関する教職員の共通認識を醸成する。	生徒指導上の細かな基準を明確にし、職員会議・年次会・職員研修等において、各種取組の指導方針・内容とあわせて周知徹底する。 身だしなみの乱れに関して、強化月間等を設定し指導を行う。 職員の生徒への声かけや、授業・HRIにおける指導を行う。	A B A			
生徒指導	生徒の主体性を育てる部活動や特別活動を展開する。	部活動加入率70%(体育系40%)を目指す。また、部活動集会を各学期1回実施し、挨拶や身だしなみについての指導も行う。 各委員会の活動を年1回実施する。	B A	・取組の指導方針や内容の徹底を図っていることもあり、問題行動の内容や指導の頻度なども改善傾向にあるので、指導を継続していきたい。 ・身だしなみ指導を日ごろから意識して行っており、また身だしなみチェックを定期的に行っているため、服装等の身だしなみも良くなり、落ち着いた学校生活を送ることができているので、次年度も継続して身だしなみ指導を続けていきたい。 ・昨年度に比べて自転車による事故も大幅に減少した。交通安全教室などの安全指導を徹底し、被害者にも加害者にもならないよう意識付けを行ってきたい。 ・部活動の加入率も65%を超え、学校全体の雰囲気にも良い影響を与えている。次年度は加入率70%を達成し、部活動を通じた学校活性化につなげていきたい。 ・生徒の善行などを学校全体で共有したり、生徒が主体的に発信できる場を確保するため、定期的に全校朝礼や年次朝礼を実施し、学校全体の結束を図ってきたい。 ・次年度も、いじめアンケートや学校生活アンケートを活用していじめ撲滅に努めるとともに、修学支援委員会とも連携しながら、いじめ防止対策委員会を毎月開催して、いじめの未然防止に努めていく。		
	いじめのない安心安全な学校を構築する。	いじめ防止対策委員会を中心に、学校の教育活動全体を通じていじめ撲滅を目指す。 学校生活アンケート・いじめアンケートを中心に、いじめの未然防止に努める。	A A			
	進路ガイダンスや講演会を活用し、生徒一人ひとりに対応したキャリアガイダンスを行い、生徒の希望進路実現を積極的にサポートする。	大学・短大、看護、公務員、就職と、様々な進路ガイダンスへの積極的参加を促し、外部模試受験に対する事前の意識付けを徹底する。また、進路情報を適宜提供するなどして進路意識の高揚を図る。	B B			

進路指導	生徒の発達段階を踏まえ、教育活動全体を通じて組織的・系統的なキャリア教育を推進する。	キャリア教育に関する包括的かつ継続的な指導を行い、生徒の進路希望を早期に考えさせ、その実現に向けた取組を行うことで、様々な困難に打ち克つ心を育てる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの参加者があったが、より効果的な時間設定をする必要がある。 ・夏季三者面談の前に行われる3年次の進路検討会の一層の充実を図り、生徒の希望や適性等を把握して、卒業後のミスマッチを予防していきたい。 	
	課外授業等を通じて、進路目標実現に必要な学力の充実を図る。	土曜セミナーや各種課外授業について、進路希望に応じた教科や年次の意志の統一を図り、生徒の進路実現に最も適した計画を立案する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学から就職へ進路希望を変更する生徒が出てくることもあるので、夏季三者面談までに、あらゆる可能性を考慮に入れた準備を進めていきたい。
	職業や勤労のもつ意義や役割についての理解を深め、進路選択や職業選択等、自分の将来の生き方・在り方の基準となる価値観を形成する。	就職に対する生徒の意識向上を図るため、1・2年次から継続的な指導を強化する。また、就職希望の生徒に対して適切な情報提供を行うとともに、年次をあげて生徒個々にあわせた就職先の開拓をめざす。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者に対しては、生徒一人一人の希望を確認しながら進路指導を行っており、それぞれが希望の職種に就職できている。今年度も1回目の受験の内定率が70%を超えているので、次年度も継続的に就職指導を行っていきたい。
保健・整美	清潔で落ち着いた生活環境・学習環境を維持するため、生徒一人ひとりが「美しい学校」づくりに関わっていることを認識させ、美化活動に取り組ませる。	掃除担当区域・監督配置の見直しや掃除方法の指導を行い、安全点検の実施やごみの分別の徹底を図る。 整美委員会によるごみの分別指導や清掃用具等の配付を行うとともに、毎月の大掃除と5回の美化コンクールを実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の大掃除と年5回の美化コンクールの実施により、生徒の美化意識の高まりにつながった。また、ゴミの削減に関して、生徒が積極的に取り組み、スムーズに実施できたので、整美委員を中心に、一層の取組を提案・実施していきたい。 ・今年度は、火災を想定した避難訓練に加え地震を想定した避難訓練も実施した。
	生徒一人ひとりが心身ともに健康で安全な学校生活を送ることができるように指導・支援する。	身体測定、各種検診、性教育講演会、カウンセラーによる心の相談、性の健康相談等を実施することにより、生徒一人ひとりの健康状態を把握し、指導・助言に生かす。 火災だけでなく、震災を想定した防災訓練や救急法講習会を実施することにより、防災意識や命を守る意識を高める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が適切な行動をとることができたが、次年度も適切な時期に防災避難訓練を実施し、生徒の防災意識を高めていきたい。 ・カウンセラーや医師等の外部機関との連携が取れ、生徒の心の健康相談事業も適切に実施できたので、次年度も継続して行っていきたい。
	年間を通して授業技術を高める授業研究や職員研修を充実させるとともに、他分掌の協力も得ながら分掌横断的内容の職員研修を実施する。	授業公開をより積極的にを行い、授業技術の向上を図る。特に「アクティブラーニング」に関する教科内での協議を中心とした職員研修を実施する。 修学支援委員会を隔週で開催し、生徒の適切な指導方法を協議して迅速な対応ができるようにする。また、情報共有のための生徒情報交換会を適宜実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体が本校の特色をより深く理解できるよう、他の分掌との連携を強化し、分掌横断的な研修や科目選択に関連した研修を企画していきたい。 ・生徒一人一人がお互いを認め合い尊厳を守ることができるよう、人権・同和教育関連の研修の更なる充実を図り、生徒への指導に還元していきたい。
研修・図書	生徒の実態に応じた人権同和教育や道徳教育を実施し、他者への配慮や社会への貢献ができる生徒を育成する。	就学支援や特別支援教育も含め、人権・同和教育や道徳教育に関する職員研修を実施し、生徒理解と生徒指導につなげるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科においてICTの活用やALの手法確立の促進に向けた教科間の情報交換を継続し、校内での公開授業を継続して実施する。 ・PTA視察研修については、視察先や内容に関してPTA研修委員会との検討を行い、より良い研修を企画し、参加者の増加を目指す。 ・図書館だよりの充実や図書館まつりの実施を通して、委員会活動を活性化する。
	図書館を活用して、幅広い知識を持ち、豊かな人間性を持つ生徒を育成する。	図書室だよりの発行や、図書館まつりなどを通して、利用しやすい図書室づくりに努める。また、図書館協議会担当校として、協議会主催行事が円滑に実施されるよう取り組む。	A		
	保護者との連携を深めるPTA活動を行うとともに、同窓会・地域の方々への情報の発信や中学校への広報活動を行う。	PTA新聞を年3回発行するとともに、学校行事の予定や活動内容を保護者へ積極的に連絡し、総合学科推進課によるHPの定期的更新に向けた連携を密にする。年3回以上中学校訪問を実施し、本校に対する中学生や保護者の理解が深まるような企画を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会、理事会を5回開催し、保護者との連携を深めることができているので、次年度も保護者との連携を密にしながら、早めの準備を行う体制を作る。 ・PTA広報紙も3回発行することができ、積極的な活動を行うことができた。 ・行事計画の立案等について、ギリギリになってしまったところもあるので、他の分掌との連絡・調整を密にして、早めの計画を行い校務運営の円滑化を図りたい。 ・中学校訪問を4回行うことができ、講倫館体験フェスタやオープンスクールの参加者の増加にもつながっているため、次年度も継続して実施していきたい。
企画・庶務	他の分掌との連携を密にして行事等を企画するとともに、情報機器やデータを効率的に活用できる環境を整え、運営が円滑に進むようにする。	各行事がさらに円滑に行われるよう、事前事後の準備、反省、記録の蓄積と改善を常に行う。 ネットワークを通して、情報の共有化を図ることができるように蓄積し、業務の効率化ができるように努める。	B	B	
	総合学科高校としてのあるべき学校像について、校内での共通理解を図り、チームワークのとれた活動に努めるとともに、総合的な学習の時間等の充実と円滑な実施を推進する。	「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通して社会理解と自己理解を深めて積極的な判断で自分の進路を選択する力を高め、「プレゼンテーション博多学」の内容の充実を図る。 生徒一人ひとりに対応したキャリアガイダンスを行い、希望進路の実現をサポートする。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科のあるべき姿に関して更なる共通理解を図るため、「生徒の多様性」とその具体的な指導の在り方について他の分掌との協議を深めていく。 ・地域の期待に応える学校をめざし、ボランティア活動や地域施設との交流等、地域と連携した活動に積極的に関わる人材の育成を図っていきたい。 ・講倫館体験フェスタやオープンスクールの日程を見直し、参加者も増加した。プログラムについても、さらに検討を重ね、より効果的なスタイルを確立したい。 ・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」における外部講師講演会やボランティア活動等、より多様な連携先を開拓していく。 ・「学習成果発表会」については、外部会場での実施を継続し、生徒実行委員会が運営する領域をさらに拡大していきたい。
	各行事の実施にあたって、外部機関との連携を深めるとともに、生徒・保護者のニーズを踏まえ、地域社会の期待に応える学校を追求する。	中学生を対象とした「オープンスクール」「講倫館体験フェスタ」の取組を積極的に行い、中学生や保護者のニーズを的確に掴んだ上での広報活動を実施し、中学生一日体験入学やPTA学校訪問の受入に積極的に取り組む。 大学・短大・専門学校・その他の外部機関等との連携を深め、校内での事前協議を綿密に行い教育内容の充実を図る。	A	A	